



24 宮川香山(二代) 青磁鳳凰文花瓶

大正十四年(一九二五) 陶磁
 径三八・五 高三四・五

一点

二代宮川香山(二八五九〜一九四〇)は明治期の名工として知られる初代宮川香山の義子で宮川半之助といった。大正五年に初代香山が没すると、翌年二代香山を襲名した。二代香山の作品は、初代の多彩な作風を受け継ぎつつ、茶の湯の器を中心に京焼や中国や朝鮮の古陶磁を参照した古典的な作風に立ち返るもので、大正から昭和へと国内の需要の変化に合わせて大型の作品は少なくなる。初代以来の真葛窯を継承する一方、昭和二年の東陶会結成に際しては、関東の陶芸家の長老的存在として顧問を務めた。

本作は二代香山が得意とした青磁の花瓶で、大正十四年の大正天皇大婚二十五年を祝して茶業組合中央会議所会頭より献上された。洗練された器形とし、豊かに張り出した肩から胴部にかけて辰砂を用いて鳳凰を描いている。二代香山は本作に前後してこの鳳凰とほぼ同図様の図案を用いた作品を制作しており、大正十四年の第十一回農商務省工芸展覧会に「紅瓷袖鳳凰紋磁器花瓶」、大正十五年の第十三回商工省工芸展覧会には「青磁袖鳳凰紋磁器花瓶」を、どちらも無鑑査で出品していることが当時の展覧会図録から確認することができる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections